主　催　公益社団法人平塚青年会議所

ひらつか
タウンミーティング

開催結果報告書

1　開催日時　令和４年（２０２２年）８月１８日（木）

午前１０時から１１時３０分まで

2　開催場所　青少年会館集会室

3　参加者　中学生１９人、大学生ファシリテーター１２人

ひらつかタウンミーティングの様子

4　理事長開会あいさつ

お忙しい中、市長をはじめ大勢の方の御協力により、本日ひらつかタウンミーティングを開催できることを大変うれしく思います。開会式から本日までに２か月間にわたって、皆さんが仲間や大学生ファシリテーターと協力しながら活動した経験は、とても大きな財産になると思います。これからの人生において市政や社会問題に積極的・主体的に取り組むことに繋がってくれるとうれしいです。本日はよろしくお願いします。

5　市長あいさつ

本日の開催に当たり、平塚青年会議所をはじめ御協力いただいている皆様に感謝します。本日は７つの中学校から１９名に参加していただきました。夏休みの中で本日のために準備をしてくれたことを大変うれしく思います。３年ぶりに、皆さんと直接お会いして意見交換できることを楽しみにしています。

6　主なミーティングの内容

グループ１・カーボンニュートラル

【生徒】

カーボンニュートラルとは、カーボン「二酸化炭素」を、ニュートラル「中立」にすることです。家庭や企業、発電所などから排出される二酸化炭素量から、森林などによって吸収される量を引いたものを「見かけの二酸化炭素の排出量」と呼びます。この「見かけの二酸化炭素の排出量」を現状のプラスから、ゼロにすること、これをカーボンニュートラルといいます。つまり、カーボンニュートラルを実現するには、二酸化炭素の排出を抑えることがとても重要なのです。

今回、テーマが３つある中でカーボンニュートラルグループを選んだ理由は、私が小学生の頃にマイクロプラスチックという環境問題について興味を持ったからです。そして今回カーボンニュートラルという新たな環境問題について考える機会をいただいたので、この機会に是非話し合いたいと思ったので参加しました。６月１８日に市役所の環境政策課の職員さんからのお話を聞いて、平塚市の環境への取組の現状を知りました。また、午後にはレモンホームでＺＥＨ(ゼロエネルギーハウス)のことや建築する時の知識などを具体的に教えていただきました。そこでＺＥＨについて興味を持った私は実際に宿泊体験に行ったところ、見学しただけじゃ伝わらない部分があり、本当に環境に優しいということがわかりました。フィールドワークを通して、平塚市がどのような現状かを知ることが出来たので

良かったと思います。ここから、私たちのグループでは平塚市の人々にカーボンニュートラルを知っている人、または意識の高い人が少ないことを課題と考えました。

そこで、私たちは、カーボンニュートラルについて知っている人、意識の高い人を増やすために、解決策として、年代別の発信とＣＯ２ＣＯ２（コツコツ）プランの変更を提言します。

まず、年代別の発信について説明します。課題の「カーボンニュートラルを知ってもらう」ためには、学生、２０～５０歳代、６０歳代以上、という３つの世代に分けて考えました。小中学生については、平塚市が開催している環境フェアは現在小学生だけが参加できるようになっていますが、中学生も参加できるようにすることで、環境について考える機会が増えると思います。

また、「教育」という点に着目して、カーボンニュートラルについて調べて考えることを、夏休みの宿題に取り入れることで、知ってもらうきっかけを作れるのではないかと思いました。その課題に親の感想欄を設けることで、親にも知ってもらえる機会となると考えました。

次に、１０歳代後半～５０歳代の働く世代には、ネットを活用して知名度を上げるのが良いと考えました。例えば、平塚市公式Ｔｗｉｔｔｅｒやインスタグラム、ネット記事を利用するのはどうでしょうか。そしてポスターを掲示して職場や駅のホームなどの目につきやすい場所に貼るのが良いと考えました。

最後に６０歳代以上には、新聞やテレビといった選択肢がありますが予算を考えた結果、タウンニュースといったネット記事を利用するのが良いと思います。ある記事からスマホを持っている６０歳代以上の人は約４割の人が利用しているということがわかりました。

次に、ＣＯ２ＣＯ２プランの内容変更についてです。私たちは、カーボンニュートラルを知ってもらい意識を高めてもらう手段として、平塚市が独自で取り組んでいるＣＯ２ＣＯ２プランに着目しました。ＣＯ２ＣＯ２プランの参加率を増やして、もっとやりがいのあるものにすることをテーマに考えました。こちらが学校で配られたＣＯ２ＣＯ２プランの紙です。なぜ変更しようと思ったのかというと、今までの内容は、中学生が日々当たり前にやっていることと変わらないので、難易度が低く、やる気が起きないと感じたからです。また、「緑のカーテンを作ろう」などの家によっては出来ないものなどはなくてもいいと思いました。

次に、私たちが考えた追加したい項目がこちらです。「プラスチックを使わずに過ごしてみる」や、「カーボンニュートラルを周りに広める」など、少し難易度を上げて、やる気を上げられるようなＣＯ２ＣＯ２プランを作りました。

他にも、ＣＯ２ＣＯ２プランのチラシの表面にあるカーボンニュートラルについての説明が難しく、興味を持ちにくいため、例えば、表面を漫画にしたり、カ

ーボンニュートラルを進めるに当たっての豆知識などを追加して、つい読んでしまうような工夫をすると良いと思いました。

この２つの政策をすることで、カーボンニュートラルについて知っている人が増え、意識が高まれば、社会全体として、カーボンニュートラルを目指す風潮が生まれ、企業や家庭から排出される二酸化炭素の量が減って、カーボンニュートラルに一歩近づくと考えられます。

ここで、私たちから市長へ質問が３つあります。１つ目の質問です。私たちがカーボンニュートラルについて話し合う中で、ＳＤＧｓや環境問題についてもっと多くの人が危機感を持たなければいけないと感じました。そこで、市の方針として、環境問題についての考えを聞かせてください。また社会保障などと比較して、環境問題を解決する優先順位はどのくらいですか。

【市長】

本市の環境に関する基本的な方針を定めている平塚市環境基本計画では、３つの基本方針として、市民・事業者の自発的な参加や市との協働を促す「環境保全・創造への参加と協働」、丘陵、里山、農地、河川、海などの豊かで身近な「自然と人との共生の確保」、日常生活や事業活動の中で環境への負荷を低減する「地球にやさしい社会の実現」を掲げています。

次に、解決する優先順位ですが、「社会保障」は、市民の「安心」や生活の「安定」を支えるセーフティネットであり、全ての人々の生活を生涯にわたって支える重要な制度です。

一方、環境問題は、地球温暖化が原因とされる気候変動によって集中豪雨による災害の多発や猛暑日の増加といった異常気象が観測され、私たちの生命活動にも影響がある大きな問題となっています。これまで以上に二酸化炭素の排出削減、カーボンニュートラルへ取組は避けては通れないものとなっています。

どちらの問題も人の命に関わることですので、「選ばれるまち・住み続けるまち」を目指す本市にとっては、どちらも重要な行政課題であると考えています。

【生徒】

２つ目の質問です。市長自身が実際に行っている環境に良い活動はありますか。その中でお勧めのものがあれば教えてください。

【市長】

日常生活における環境配慮行動という点では、省エネやごみの分別については日頃から取り組んでいます。

市長室は市役所の４階にありますが、そこに行くまでエレベーターを使わずに階段を昇り降りしています。健康にも配慮することができます。明るい日には、部屋の照明を消して、執務をしています。また、お昼はお弁当を頼んでいますが、その際はお箸を自宅から持ってきて使っています。割り箸を使わないことでごみ

の発生を抑制できます。

ひらつかＣＯ２ＣＯ２プランにもつながりますが、小さなことでもコツコツと積み上げていくこと、それを実行することで新しいメリットを生み出し、楽しく続けていくことが、私のお勧めの活動です。

【生徒】

３つ目の質問です。現在のＣＯ２ＣＯ２プランの効果に満足していますか。また、参加をより強く促すことで効果が上がると思いますか。加えて、今後新しい取組をする考えはありますか。

【市長】

ひらつかＣＯ２ＣＯ２プランは、２００５年にスタートしています。小学生の子どもたちは、中学校を卒業するまで、毎年夏休み中にＣＯ２ＣＯ２プランに参加し、家族ぐるみで取り組まれてきたことと思います。そうした積み重ねにより、ＣＯ２ＣＯ２プランといえば、環境配慮行動への取組という認識が定着してきているという点で有効な啓発ツールであると考えています。

また、一般家庭編では、取組メニューにその時々の環境問題にあわせた項目を加えることで、社会の動きに合わせた意識啓発を心がけています。更にこれまでの紙の申込に加えて、スマートフォンからの参加もできるようになりましたし、参加者へのプレゼントに電子商品券の「スターライトマネー」を追加することで、参加を増やす工夫をしてきました。環境配慮行動を実践する人が増え、市民の皆様に環境への意識が根付いていくと期待しています。

これからも、社会状況に応じたメニュー設定や参加方法などを取り入れながら、ＣＯ２ＣＯ２プランを継続してまいります。

グループ２・防災

【生徒（司会）】

これから防災グループの発表を始めます。

皆さん今回どれも興味深い３つのテーマの中から防災を選んだと思うのですが、その中でなぜ防災を選んだのでしょうか。

【生徒】

私は日本が地震大国ということもあり、災害という存在が他人事でないと感じていました。特に、平塚は海や大きな川があるので、地形的な視点から見ても被害が大きくなりやすいなと感じていました。なので、もう一度防災についてよく考えてみたいと思うと同時に、自分が生まれ育ったまちへ地域貢献がしたいと思ったからです。

【生徒（司会）】

１日目にはフィールドワークを行ったと思うのですが、どのような方からお話

を伺ったのですか。

【生徒】

午前中には災害対策課の職員さんからお話を聞き、平塚市の現状を知りました。また、午後には女性防災グループパワーズさんからお話を聞き、その後に、平塚探索に行きました。

【生徒（司会）】

フィールドワークで学習した中で特に印象に残ったことはありますか。

【生徒】

印象的だったことは３つあります。１つ目は、身近なものでの応急処置の仕方を実際に体験したことで、２つ目は外出先での被災に日頃から備えられる防災ポーチの存在を知ったことです。３つ目は江陽中学校の備蓄倉庫や非常用貯水槽を見た時です。どの体験も実際に災害が起きたときに自分がどうするべきかを深く考えることができました。また、フィールドワーク全体を通して、自分達が住んでいるまちにも関わらず知らない事が多いと感じました。

【生徒（司会）】

確かに、フィールドワークを通して新たな発見をたくさんされたわけですね。それでは私たちの体験から見えた問題点と考えた課題は何でしょうか。

【生徒】

日頃、防災に関して関心を持って過ごしていますか。市長も含め、この会場にいる方で、日頃関心を持って過ごしていると思う方は手を挙げてください。

ここには防災を自分ごとに捉えられている人が多いようです。しかし、私たちのグループでは、防災情報が周知・普及されていないことが根本の課題と考えました。

課題を解決するために、３つの提言を行います。１つ目は、防災訓練のやり方を変えることです。理由は、今の防災訓練で避難した後の話が退屈だという意見が挙げられたからです。楽しめる訓練にしたほうが効果的な訓練になると思っています。

【生徒（司会）】

なるほど、考えはとても伝わってくるのですが、具体的に想像するとパッと出てきません。

【生徒】

例えば、自分たちで防災訓練の年間計画を立てれば、自分で育てた野菜で作ったカレーが美味しいように、楽しくやる気になる訓練ができると考えられます。また、今の防災訓練の実施回数が少ないと思うのでもっと様々な災害を想定し避難訓練をした方が良いと考えました。２つ目は、「ひらつな祭」を盛り上げることです。理由としては、防災に関する祭りをやっているのに認知度が低いからです。

せっかくの防災情報を得られる機会である「ひらつな祭」について、知名度が上がることで防災に関する意識が高まると思います。

【生徒（司会）】

確かに、話し合った中では、「ひらつな祭」を知っている人はかなり少なかったですよね。具体的に知名度を上げるにはどうしたらいいと考えますか。

【生徒】

具体的な案としては、「ひらつな祭」では中学生が防災ポーチを紹介したり応急処置の方法をレクチャーしたり、防災情報を伝えるような遊びをしたりするブースを設けようと思っています。更に家族や友だちを呼ぶことで「ひらつな祭」の認知度を上げられると考えました。また、他の案として、「ひらつな祭」というお祭りの名前を、防災のお祭りと分かりやすいように変える方法もあると思います。

３つ目は災害予想と避難の再現をする動画を作ることです。理由としては、動画だと実際の避難方法が分かりやすいからです。１つ目にもあったように自分事として考えられず退屈になってしまいやすい防災訓練をした後のお話の時間は、この動画を見る時間に変えるのも良いと思います。

【生徒（司会）】

なるほど、動画による効果は大きいですよね。どのような動画が候補としてありますか。

【生徒】

例えば、地震、津波、噴火など平塚で起こりうる災害を想定した動画で予測される災害の規模と一緒に避難方法などを学べるような動画を作りたいと思っています。地域の中高生に出演してもらうことで話題になる動画を作りたいです。また、平塚のキャラクター等とコラボしたり、サムネイルを工夫したりもして、ユニークで身近に感じられるものにすると良いと思います。動画内で平塚の宣伝も行えば一石二鳥になると考えます。

【生徒（司会）】

以上の提言から、具体的にどのような効果が見込まれると思いますか。

【生徒】

平塚が、子どもから大人まで全世代が災害に対する最低限の知識を持っており、防災がテーマになっているお祭りや、災害の予想動画を作り、市民への防災の大切さを伝達するなどして、災害対策に対して積極的なまちになることが期待されます。政策提言は以上になります。市長の前向きな検討をお願いします。

【生徒（司会）】

続いて、市長への質問に移りたいと思います。質問は３つあります。１つ目は、先ほどの提言の中で、「防災ポーチ」というキーワードが何回か出てきたと思いますが、市長はそもそも「防災ポーチ」について御存じでしょうか。また、その中

身について、どのようなものを入れるべきだとお考えでしょうか。御回答をお願いいたします。

【市長】

「防災ポーチ」については知っています。防災ポーチとは、非常食や、ホイッスル、携帯用ライト、モバイルバッテリー等の防災グッズの他、薬や現金等を一つにまとめ、災害に備えて常に持ち歩くものです。私自身も防災グッズはカバンに一つにまとめてあり、何かあった時にはすぐに使用できるように準備しています。

「防災ポーチ」に入れておくべき中身はインターネットやホームセンター等で広く紹介されていますが、私が特に重要だと思うのはモバイルバッテリーだと思います。また、ホイッスルや携帯用ライトも建物に閉じ込められてしまった場合には役に立つアイテムだと思います。助けを求める人の声は思ったより救助隊に聞こえないもので、ホイッスルの音や携帯用ライトの光で自分の存在を知らせることができます。

【生徒】

２つ目の質問です。提言でも言ったように、今回私たちは中学生の防災教育の一つの避難訓練に視点を当てました。平塚市の中学校の防災教育は単発的であり、避難訓練を越えた継続的な防災教育が行われていないのでしょうか。

【市長】

学校の授業では、各校が様々な授業の中に防災の要素を取り入れて行っていると聞いています。

例えば、社会の授業では、自然災害の防災対策にとどまらず、災害時の対応や復旧、復興を見据えた視点から、消防、警察、海上保安庁、自衛隊等の関係機関と、地域の人々やボランティアなどが連携して、地域の人々の生命や安全の確保のために活動していることなどにも触れていると聞いています。また、理科の授業では、台風について学ぶ時に大きな被害をもたらした過去の台風の特徴を取り上げるとともに、台風の進路に基づいて強風や高潮などによる災害の発生した状況までも含めて学んでいると聞いています。こうした授業を通じて、自然災害に対して備えることの重要性を学んでいると思いますが、今回、指摘いただいた「避難訓練」は、まさにその中の一つであると認識しています。三陸地方では「津波てんでんこ」と言われ、津波が来たらてんでんばらばらに、まず逃げるよう伝えられており、日頃から避難訓練を行っていた成果の一つとして東日本大震災時の「釜石の奇跡」に繋がったと言われています。

平塚市においても、繰り返し避難訓練を行い、各自が自然に避難行動を起せるようになっていただきたいと考えています。

【生徒】

３つ目の質問です。市長が今まで経験した災害の中で一番印象に残っている災害があれば教えていただきたいと思います。また、市長は災害時どのような動きをするのでしょうか。

【市長】

まず、印象に残っている災害について、２つの事例を挙げさせていただきます。

１つ目は、「令和元年１０月の台風１９号」です。城山ダムの緊急放流により、相模川の水位が上昇し氾濫の恐れがありました。これにより大神のスポーツ広場やベルマーレの河川敷練習場が水没し、四之宮地区等でも浸水被害が発生しました。

２つ目は「令和３年７月１日から３日にかけて降った大雨」です。この時、静岡県熱海市では大規模な土砂災害が発生しましたが、平塚市内でも各所で冠水や小規模土砂崩れの報告が相次ぎ、河川の水位計から金目川が氾濫している恐れがあったため、全国初となる「警戒レベル５緊急安全確保」を発令することになりました。

次に、市長の災害時の動きについてです。市長は、平塚市災害対策本部の最高責任者であり、台風等の風水害が予想される場合には、被害が出る前に雨雲の今後の進路や被害想定を職員に調査させて、いち早く避難情報として市民に伝えます。そして、実際に被害が起きているようであれば被害状況を確認して、被害を受けた市民に対する支援を行います。また、地震で大きな被害が出た場合には、指定避難所の開設指示や必要に応じて国や自衛隊等の関係機関への救助要請を行います。私は市長として、災害時に市民の生命・財産を守るためにはどうすれば良いのかを常に考えています。

グループ３・多文化共生

【生徒】

私たちがテーマが３つある中で多文化共生グループを選んだ理由は、外国人の方々はたくさんの苦労をしていることを知り、現状を変えたかったのでこのグループに決めました。

私たちは６月１８日の午前中に市役所文化・交流課の職員さんからお話を聞き、平塚市の現状を知りました。またヒコーキ雲の会の会長さんから平塚市の姉妹都市であるローレンス市に留学した経験を聞き、平塚市国際交流協会の方からは幼少期を過ごしたブラジルでの思い出や帰国後の国際交流に関する活動についてお話を聞きました。

ここから私たちのグループでは、文化、生活習慣を共有する機会がないことが課題と考えました。このことで文化や生活習慣の違いから、日本人と外国人とのトラブルが生まれてしまうことが問題だからです。

この課題を解決するために、提言を行います。それは日本人と外国籍の中高生の定期的な交流会の開催です。理由は誰でもできる共通の楽しいことを一緒にすることで、言葉や文化の壁を乗り越えて仲良くなり、お互いを理解するきっかけを作れるからです。この交流会の頻度は月に１，２回程度で、場所は公民館や学校の体育館を中心に行っていきたいと考えています。また中高生を対象に何校か合同で行い、運営も中高生で行おうと考えています。交流会の内容としては、例えば、お互いの国の料理を作ったりお祭りやゲーム、スポーツをしたりしようと考えています。そうすれば、お互いの文化も共有することができ、多文化共生社会の実現に向けて良い影響を与えると思いました。この提言のために、市には先ほど言った料理やお祭りなどの設備の提供や場所の提供をお願いしたいです。また、市役所の皆さんと協力してイベントの企画運営をしたいとも考えています。

以上の提言から、お互いの文化も共有することができ、多文化共生社会の実現に向けて良い影響を与えると思いました。政策提言は以上になります。

そして市長へ質問が２つあります。１つ目は、外国籍市民の方に向けてのＳＮＳの活用の現状についてどうお考えになっていますか。

【市長】

本市には７９か国、５千人以上の外国籍市民が在住しています。ＳＮＳを活用した母語での情報発信をするとなると、多言語による膨大な通訳、翻訳作業などが必要となり、迅速に情報提供することが非常に難しくなります。そのため、本市では「やさしい日本語」を普及させることで、外国籍市民と円滑にコミュニケーションを取れるようにすることが、まずは重要と考えています。「やさしい日本語」とは、難しい単語や表現を使わない、外国人にもわかりやすい日本語のことです。例えば、窓口が混雑している時に、通常は『お掛けになってお待ちください』と案内しますが、「やさしい日本語」に言い換えると『そこで　いすにすわって　まっていて　ください』という表現になります。

普及の方法としては、市職員向けに研修を行うほか、外国籍市民に対しては「日本語教室」を開講し、日常生活に役立つ内容の「やさしい日本語」を学んでいただくような機会を提供していきます。

この「やさしい日本語」を普及させた上でＳＮＳを活用していくことが、外国籍市民への情報発信の方法として最も効果が高まるのではないかと考えています。

【生徒】

２つ目は、私たちの提言である「日本人と外国籍の中高生の定期的な交流会の開催」を学校単位から地域単位に広めるために、参加者を集めることが必要です。そのためにＳＮＳを活用したいと思っているのですが、どのようにしたら良いとお考えになりますか。

【市長】

本市では、様々な国の文化や生活習慣について理解を深め、交流を図る機会として「国際交流フェスティバル」を開催しています。皆さんの提言である「日本人と外国籍の中高生の定期的な交流会の開催」については、まずはこの「国際交流フェスティバル」にブースを出展するなど主体的に関わっていただき、その経験を踏まえて実施するのも一つの方法として検討してみてはいかがでしょうか。今年の「国際交流フェスティバル」は１１月２０日にこの会場で開催する予定ですので、そこに参加していただいて多様な国籍の方々と仲良くなることで、皆さんが交流会を開催する際にもＳＮＳを活用してスムーズに参加者募集ができるのではないかと思います。また本市としても、皆さんが交流会を開催する際には、平塚市国際交流協会と連携してサポートをさせていただきたいと考えています。現在、国際交流の活動を担っていただく人材として、皆さんのような若い世代の方が不足しているのが現状ですので、多文化共生社会の実現に向けて、国際交流の活動の場に積極的に参加していただければと思います。

7　市長感想

本日参加いただいた皆さんや平塚青年会議所の皆様が綿密な準備を重ねてくれたおかげで、大変有意義な時間を過ごすことができました。心から感謝申し上げます。皆さんは若者ならではの視点で、平塚市の置かれた状況から課題を発見し、難しい課題に対しても前向きに捉え、提言はどれも柔軟な発想から得られた熱意あふれる内容でした。今回のタウンミーティングが、平塚という「まち」を見つめ直すきっかけになればうれしく思うとともに、将来の平塚市を担うような人材が出てくることを期待しています。

8　副理事長閉会あいさつ

落合市長、本日はお忙しい中、御参加いただきありがとうございました。

また、中学生の皆さんも本日に至るまでの準備期間を含めて大変お疲れ様でした。皆さんが本日提言した内容にこれからも積極的に関わってもらえるとうれしいと思いますし、平塚青年会議所としても協力していきたいとと思います。このタウンミーティングで生まれた中学生同士のつながりや、大学生や青年会議所メンバーなど世代を越えたつながりを大事にしてもらえるとうれしいです。本日はありがとうございました。

以　上